

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 6名回答、回答率 100%
保護者様： 28名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・発達支援室は、学習スペースと運動スペースにわけ、安全性を確保した上で支援に努めている。
- ・死角を作らないようにしている。

○業務改善

- ・日々の業務について職員間で分担し、効率よく取り組めるよう努めている。
- ・業務前ミーティングにて、支援に関する情報共有や振り返り、改善点等について話し合いをしている。

○適切な支援の提供

- ・安全管理対策を行った上で、個々のレベルに合わせた課題を提供している。長期休暇の際には、デリバリー活動や調理活動など様々な経験が積めるよう活動の企画・立案を職員間で話し合い、実施している。

○関係機関や保護者との連携

- ・必要に応じてケース検討を行い、支援計画を期間中に変更することがある。
- ・家庭連携はそれぞれの家庭に合った者が行くようにしている。
- ・保護者と連携し、それぞれの学校の予定を毎月把握している。

○保護者への説明責任等

- ・毎月のニュースレター配布に加えて、祝日や長期休暇の際には、別途お便りを作成・配布し、保護者様へ周知する工夫を行っている。

○非常時等の対応

- ・月一回の避難訓練は、地震・火災・水害・雪害・不審者等様々なケースを想定し実施している。
- ・虐待防止や身体拘束、感染症対策など、教室内研修を定期的に行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・活動スペースについては8割以上の方から十分に確保ができているとの声を頂いた。児童がのびのびと活動できるように、療育グッズや本棚等の配置を再度検討していく。
- ・職員の配置や専門性についても、8割の方から十分に確保できているとお声をいただいた。「わからない」「どちらとも言えない」というご意見も頂いたため、療育参観や保護者会を通じて、どんな点を改善したのか等の周知を改めて徹底していく必要がある。

○適切な支援の提供

- ・日々の支援や個別課題に関して、また個別支援計画等に則った適切な支援が出来ていると9割以上の方からお声をいただいた。引き続き、ニーズに沿った個別支援計画の作成と日々の支援を行っていききたい。

○保護者への説明等

- ・児童の様子や発達状況に関して共通理解が出来ているというお声を数多く頂いた。その一方で「月に数回だけの為、十分に共通理解できているかはわかりません。」というご意見も頂いたため、保護者との情報伝達の配慮に力をいれ、共通理解を深めていきたい。また、今年度は保護者会の開催がまだ出来ていないこともあり、保護者同士の繋がりを持つ機会が持てなかった。

○非常時等の対応

- ・事業所での避難訓練等が適切に行われているかという点に関しては、出来ているというお声を多くいただいた。

○満足度

- ・こどもが安心感を持って通所している、事業所の支援に満足しているというご意見を9割以上の方からお声をいただいた。今後も関係機関や保護者との連携をさらに深め、よりニーズに合った温かい支援に取り組んでいきたい。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・換気などの教室環境改善の実施。
- ・苦情対応についてのお知らせを配布、保護者会実施のかわりに、教室からのお知らせをお便りにして配布。回数を増やす。
- ・長期休暇時や土曜日などに、公園外出の機会を設ける。感染症予防と並行して、上野近隣への課外活動の実施を検討。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・床や壁の修繕、コーナーガードや指はさみ防止のカバーの新調等、教室環境改善を実施することができた。
- ・苦情対応の周知徹底や保護者交流の機会の設定が十分ではなかった。
- ・夏季休暇に課外活動を企画、実施することができたが、まだ頻度が少ない。



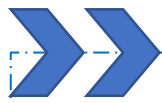
アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・個別課題や集団療育で、利用生徒の特性に合った内容の立案や実施が来ている。
- ・保護者との情報共有や密な連携をとることで、よりよい支援を検討し、支援の満足度につなげることが来ている。

○改善点

- ・室内での活動が中心となっており課外活動の頻度が少ない。
- ・非常時等の対応についての周知が不十分。
- ・保護者交流の機会が不足している。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・活動プログラムが固定化してしまう傾向があるため、職員間による教室内ミーティングの頻度を増やしたり、法人内他事業所の活動内容を参考に取入れたりして改善や充実を図っていく。
- ・長期休暇や土曜日などの時間を活用し課外での活動の頻度を増やす
- ・保護者会や保護者交流の機会の場を増やす。

○1年間で取り組む具体策

- ・月ごとに担当制で取入れたい活動を教室内ミーティングにて共有し、活動プログラムの充実を図る。また、児童にもやりたい活動や行ってみたい場所などをヒアリングし活動のバリエーションを増やす。
- ・参加しやすいように療育参観・保護者会を1年間で2回ずつ開催を検討し、支援内容や非常時の対応方法などの周知と保護者同士の交流の機会を設ける。